

## D-13 味覚物質の電気生理学的研究（第1報）

### —味の素に就いての検索—

和洋女子大学 川村 一男

演者は化学調味料を味覚の立場から客観的に逐次観察しようと生体外に取出した 蟻の舌及び舌咽神経を利用し、此場合は其舌面に対し各種濃度の味の素溶液を滴下し舌咽神経に伝えられる神経衝撃を電気生理学的に働作流として導き出した所、味の素溶液の濃度と働作流即ち味覚との間に聊か知見を得たので、其結果に就いて報告する。